

# 文芸小くらがわ

## 俳句

【大和俳句会】  
麦二寸生きる証を農日記 安達 幸子

子のくれし熱き甘酒寒き夜 代田 とし

読書好き先人仰ぐ梅の花 鈴木 登美子

干し蒲団母の匂ひと日の温み 岩渕 のぶ子

## 短歌

【花の室 木崎集】  
電力王と呼ばれし松永安左衛門予想したるか  
3・11 塚田 沙玲

日に幾度救急車の音聞こえてきて何やら胸の  
苦しくなりぬ 石浜 今日子

早朝の曇りガラスにただよう影はひらりひら  
りと初雪の舞い 大久保 まさ子

一生を教えの道にさきげつつ八十路になれば  
教え子らは七十路 高昌

母子草の葉となりて幾年月色あせぬままだ日記  
より出づ 塩谷 明子

人生に未だ足らざるものとして携へてゆく愛  
が見えない 松田 早苗

その昔花といえは梅に桃今は日本の代表桜  
塚本 幸子

ゆき ゆき ゆき越後の里に妻子おき杜代は  
室で麴にむきあう 西岡 和子

旧道に残る古家の粗壁に昭和の看板美母散あ  
り 野村 幸男

「よいいドン」孫とかけ足勝負する夢中で走  
る三才の身体 山田 洋子

朝の陽がゆつくり心をとかしゆく手にとる詩  
集『くじけないで』 奥田 豊子

白粥の忘年会なり入院の友のベッドにひとと  
き座る 間々田 久子

かなしかること重なりぬ頭の中めぐる言葉  
は(春よこい)(早くこい) 田村 敦子

初詣子ら神妙にこうべ垂れ御幣さらさらねが  
いごとする 田村 ひろみ

【岩瀬萩歌会】  
いつか噴く山の鼓動を潜ませて白根清けし光  
る初冠雪 大関 節子

村祭りやしらの鳥居に新藁の大蛇のごとき  
注連縄かかぐ 安達 悦子

荒れ果てし里山紅葉こく淡く燃えて彩なし空  
はま清か 坪井 ゆき子

湾内に夕陽は落ちて岸の辺のたゆたふ波に赤  
くゆらめく 石川 喜代

【一般投稿】  
一年の苦勞を癒やす暮年会酔いも回わつて満  
面の笑顔 鈴木 省一

## 俚謡

【そくら俚謡会】  
ススキアワダチ木枯し咽ぶ田圃放棄に出る涙  
みなのか 遊

風も立春平和という字死語にしないで永久に  
岩瀬 絵都女

色気ついたか春風夜風花のペールを巻き上げ  
る 一木 みどり

表六玉だが正直者の亭主にほんわか惚れてい  
る いなばない

梅も二の足散らつく六花気団トランプ荒れ模  
様 田 哲人

創業120余年の伝統と実績  
本格木造住宅・リフォーム

**TAIYO 大洋建設有限公司**

茨城県桜川市真壁町下谷貝1110-1  
☎(0296) 54-0307 📠(0296) 55-3155



あなたの側で、  
誠実に、忠実に。

**Digital**  
Digital Print Co.Ltd.



株式会社 **デジタル印刷**  
TEL 0296-54-2626 (代)  
FAX 0296-54-2724

www.digital-54-2626.com